

## ■ 地域づくり協議会からの意見

地域づくり協議会の現状や運営に関する課題、今後の方向性、協働を進めるために必要なことなどについて意見交換を行いました。

### 意見

- ・過去に地域における最重要とするべきは「高齢者への支援（健康福祉）」ということで、全地域で共通の認識をもって取り組んできた。しかし、実際に支えあい活動とする事業を実施しているのは7地域だけであるため、改めて意識する必要がある。
- ・現在の地域の実情を鑑み、地域計画の内容を検証していく。
- ・当地区のデジタル状況（スマホ使用状況）について、地域づくり協議会の中では専用のスマホにより連絡を取り合うようにしていることから、全く無知ということはない。しかし、スマホを所持しながらも、よく使用するのは電話のみという方もいると思われる。
- ・現在、有料による体験企画を無料で体験してもらうことを検討している。
- ・コロナ禍にある現状でも、実現ができるイベントや取組等について市から発信や共有してほしい。
- ・各地域づくり協議会の取組を知りたい。
- ・地域づくり協議会同士の意見交換は有効であると思うが、海側と山側など状況が違うため、似た状況同士で意見交換ができると良い。
- ・働き世代（若者世代）はまちづくりに関心が薄い。
- ・地区に神社がなく、地域イベントが元々少ないところに、コロナにより盆踊りも中止になった。人を集める手段に悩んでいる。
- ・子育て支援として、乳幼児がいる家庭を対象に、身長等の計測や参加者同士の交流の場を開いた。新しい家も増えてきており、昔とは違い、近所づきあいも希薄になっていることから、今後も継続していきたい。
- ・市に対して意見しようにも、行う手段がない（ハードルが高い）。もっと簡単に意見を提案できる制度を確立するべき。現在は、自治会からの要望のみ。
- ・災害に対して、意識が低いため、意識してもらいたい手法について悩んでいる。
- ・協議会の認知度を上げる取組が必要である。
- ・協議会がどんな取組をしたいかは、今年度の地域計画を見たら分かる。
- ・総合計画に基づいてどんなことをしているかわからない。
- ・そもそも総合計画が何か分からない。
- ・市はどんなまち（どんな特色）にしていきたいのかわからない。
- ・今年度、複数の地区と合同で、鈴鹿川氾濫を想定した防災訓練を行った。引き続き横のつながりを継続し、違う視点で意見をもらいながら、良い点を取り入れていきたい。
- ・全国的に民生委員の担い手が不足している。鈴鹿市だけの話ではないが、70歳まで働く時代になっており、今後、更に担い手が不足することが考えられる。
- ・若い世代の参加が少ない。参加してもらえるような企画等が必要。
- ・親世代の参加が少ない。
- ・地域イベントに参加してもらい、世代交代をしていきたい。
- ・地域の宝を守り、更にそれをPRしていきたい。そのために行政の力を借りたい。
- ・地域と行政、地域と地域のつながりを深めていきたい。
- ・地域カルタを活用し、ロゲイニングのような取組を企画検討している。
- ・市から自治会へ発信する情報についても、地域づくり協議会へ共有してほしい。
- ・地元の祭りを開催したい。3年間未開催で、今年度(令和4年度)開催予定であったが、諸事情により頓挫した。開催に向けて、どういった考えのもと、企画していくかなど、知識が乏しいため、開催に向けたアドバイス等を行政からいただきたい。
- ・地域住民の交流ができていない。
- ・地域住民の高齢化に伴い、危険と考えられる道路の整備などを行政にお願いしたい。
- ・他の協議会の取組事例を情報共有してほしい。その中で自分たちが取り組めるものがあるかもしれない。
- ・高齢者（70代～80代）しかまちづくりに参加していないため、今後の地域づくりを担える人づくりが必要。
- ・住民のまちづくりへの関心が低い。
- ・若い世代をまちづくりに参加させたいが、平日は仕事があり、休日はゆっくり休みたいと思っている方がほとんどであるため難しい。
- ・地域づくり協議会の存在意義に疑問を感じている。
- ・デジタル化が必要。
- ・若者が参加できるようなイベント（寺巡りなどのウォーキング）を企画したい。
- ・地域づくり協議会の役員を無理矢理やらされている感があるので、もっと前向きに取り組めるように、市からの言い方を考えてほしい。
- ・次の地域計画及び総合計画を策定するに当たっては、まずは総括をしてから意見交換をすべき。
- ・各地区のアンケート結果を分析してから次にどう生かすか考えるべき。

・がんばっている地区にはもっとお金を出すべき。
・地域づくり協議会を立ち上げた理由がわからない。まずは、立ち上げた理由を教えてください。
・行政は縦割りで情報共有ができていない。
・横のつながりの情報提供が必要。（市内他協議会や他市の事例紹介）
・若者へのアプローチの工夫が課題である。
・全戸に地域計画や地域づくり協議会の広報を配布し、協議会の活動内容を周知しているが、どこまで浸透しているかがわからない。アンケートをしてもほぼ返ってこなかった。
・協議会が使命を持って取り組むべきことの市からの情報提供が必要。
・高校生、大学生や子育て世代などの若者も巻き込んだ協議会運営を進めたい。
・連絡調整でのデジタルの活用をもっと進めたい
・協議会から住民への一方的な情報発信にとどまらず、地域住民からも協議会に情報発信され相互共有される体制づくりが必要。
・地域住民同士が助け合えるような地域の活性化を図りたい。
・コロナのため、今までの取組の成果が見えにくい（分かりにくい）こともあり、今後、どのように改善するかを測りかねている。
・地区内でのイベントの情報が協議会に入っていない。市から周知しているのか。
・市と同じ方向を向くために、市の計画の現状を情報提供してほしい。
・役員のなり手がいない。
・子ども会がないため子育て世代と交流できる場がない。
・連絡手段をメールのみにすることは反対である。高齢者は使いこなせない。紙文書が手元に残るので良いと考える。
・地域住民と一緒に汗をかければ関係が変わってくると考えている。小さな規模でも良いので一緒に汗をかくことができるような取組をしたい。
・地域に根差した地域支援職員が必要である。地域支援職員と支部派遣者を同一人物にした方が良いと考える。
・若者は地域活動を嫌がる傾向にあるため、子ども会やゴミ集めをなくした。
・地域活動に参加するのは高齢者ばかりでいつも同じメンバーである。
・地域の意見を聞くことは大切だと思う。
・当地区の市職員は地元でよく動いてくれる。
・ほかの協議会の事業内容などの情報がほしい。
・役員は70代の高齢者ばかりで後継者がいない。
・40代くらいまでの若者を参加させることが困難。
・今後の地域づくり協議会の運営を考えると、まずは、若者に地元のことをよく理解してもらうことが必要。良い点、問題点など知ってもらうことで当事者意識を持ち、まちづくりに関心を持ってほしい。
・事業計画の2割ほどしか実施できておらず、一括交付金も半分程度返還している。
・毎年事業計画に沿って取り組みたいが、まだまだコロナが心配で予定どおりできない。
・女性が中心となった取組を何かしていきたい（ほかの協議会では消防団に女性がいると聞いた）。
・今年も公園でイルミネーション実施する。去年より電球の数も5,000から10,000に増やし、期間も1週間から7週間程度に延ばす。また、点灯式で花火もする。ボランティアを募集しているが、小学校に声を掛けており、子どもに手伝ってもらうことで親も参加させる狙い。盛り上がってくればほかの公園でも実施していきたい。
・コロナでできていない取組（防災訓練、スポーツ大会）を小規模でも良いから工夫してやっていきたい。
・通学路などの危険箇所の点検、AEDの講習会などをしたい。
・事業の企画をいつも決まった2～3人でしている。一緒に企画してくれる住民を増やしたい。
・ほかの協議会の取組内容を情報共有してほしい。その中で当協議会でも取り組めることがあればやっていきたい。
・地域づくり協議会の活動を住民に知ってもらいたい。
・コロナの感染拡大によりイベントなどの活動ができていない。
・福祉の分野に力を入れていきたい。
・地域づくり協議会と市の役割分担をしっかりと考えてほしい。1軒1軒の家単位への支援は地域づくり協議会で担っていくが、市には地区や行政区で何が必要かを考えて実行してほしい。
・地域づくり協議会に話を聞きに来ているが、自治会をもっと重要視すべき。地区を代表しているのは自治会である。
・地域住民の安全安心のためにはインフラ整備が欠かせないが、進んでいないと感じる。助け合いの前に公共インフラを整えてほしい。
・まちづくりが始まって20年経っているが、中間総括がされていない。
・ゴミの分別を嫌がったり、ゴミ袋が買えなくて米袋などでゴミを捨てている世帯もあるため、四日市市や亀山市のように溶解炉を導入してほしい。
・避難場所の収容人数が不足しているなど、防災計画に不備があると感じている。
・鈴鹿市は鈴鹿商工会議所が訴えた人口30万人計画と一緒に目指すべき。そのためにも企業誘致を進めるべき。
・他の地域づくり協議会が実施している取組を知りたい。

・学校区と地域づくり協議会の区割りが異なっており、連携が難しく混乱する。
・総合計画2023に「地域づくり協議会の主体的で計画的な活動を進め」と記載されているが、市全体として本当にそのような考えを持っているか疑問に感じる。
・不定期ではあるが、年に3回ほど「地域づくり便り」を発行し、全戸配布して地域活動の周知を行っている。
・地区のマスコットキャラクターを活用し、目に留まるように工夫している。
・啓発物品として、一括交付金を活用し、備蓄食品やクリアファイル、のぼりなどを作成し、社会見学やイベント時に配布している。
・地域計画を作成するに当たり、資料となる市が実施するアンケート結果などが、行政区での結果となっており、地域づくり協議会が管轄する地区に特化した計画が作成できない。しっかりとした地域計画は作成するためには、地域づくり協議会の区割り別の人口等データが必要。
・次回地域計画の策定に当たっては、加速する人口減少及び高齢化を見据えた計画にする必要があり、これまでと同様の取組ではいけない。
・協議会には行動できるリーダーが必要。そして一緒に動いてくれる人を少しずつ集めて人材育成していく。
・地域づくりは人づくりである。
・高齢者の見守り等高齢者福祉を充実させたい。農協や郵便局に協力してもらったり、高齢者の世帯構成に応じた対応方法を検討したい。
・高齢者福祉に力を割く必要がある分、逆に削らないといけない事業も出てくると考える（例えば公園を1つなくして高齢者のための何かに活用するなど。）。
・優先的な取組として掲げている「移動手段」、「生活物資」に力を入れている。
・子どもが高齢者に手紙を書く取組があり、お礼のお菓子を協議会の名前で渡している。
・広報を月に1～2回発行している。
・グループLINEによる情報発信も行っている。登録者数は150人程度。
・コロナの影響でできなかった事業もあるが、全てを中止にするのではなく感染対策をしながら工夫して祭りなどを開催してきた（日程を2日間に分ける、飲食はテイクアウトにするなど）。
・大きな地区であるため、各自治会でも実施していることがバラバラであり、1つの地域づくり協議会として、まとめてイベント等を実施するのは難しい。
・地域づくり協議会は、自治会長や民生委員の協力により成り立っている部分があり、後継者がいないことも危惧している。
・地域づくり協議会の在り方について、明確にしてもらいたい。自治会と違い、イベント等を実施する際に要する費用も使用制限があるなど、運営するのが難しい上に、地域づくり協議会としての役割が不明である。
・積極的に大きなイベント等を実施する予定はない。
・地域づくり活動の周知について、回覧などだけでは弱い。アパートにも持ち込むようにしているが、断られることもあるため、市が先頭を切ってもらいたい。
・紆余曲折を経て協議会の現在があるため、当面は空中分解しないように組織を継続していきたい。
・総合計画内に「自治会」という文言が入っていないのはおかしい。
・総合計画作成に当たり、たくさんの人の意見を聞いてもらいたい。
・各まちづくり協議会の取組を知りたい。
・複数の地域合同によるイベントを市と共同で企画する。
・働き世代（若者世代）はまちづくりに関心が薄い。 ⇒組織に所属してもらえず、高齢者ばかりで構成されている。 ⇒仕事を理由にされると無理強いできない。 ⇒イベントをしようにも、コロナでできない。 ⇒小さいイベントでは、関心してもらえない。 ⇒イベント主催側のデメリット（イベント中の問題発生などによる責任）が、関心が薄い要因の1つ。
・少しずつイベントを開催していきたい。
・魅力的なイベントを企画すれば人が集まると考える。
・地域柄によるものが原因と思われるが、過去に実施したアンケートでは、住みやすいという意見が多く、現在の暮らしに不満がない人が多い。 ⇒地域づくり協議会の必要性が無くなる、又は統廃合することも考えられる。
・自治会役員の後任がない。地域づくり協議会もこの先存続できるかわからない。若い世代が参加できる仕組み作りが必要。
・市政に関心（イベントなどの行事ではなく問題意識）を持たせる工夫が必要。問題意識を持てば、市政及びまちづくりに関心を持つと考える。
・地域づくり協議会を条例化までして立ち上げた意義がわからない。また、立ち上げ後のフォローがない。
・市民は市政に関心がないため市の取組の方向性がわからない。総計自体の認知度も低いと思われる。次期総計は市民に伝わりやすくするため、文章表現などわかりやすいものにした方が良い。

・目標の達成度を測る評価は、毎年する必要がない。そこまで気にしなくて良い。最終年で良いと考える。
・総計策定に当たっては、自治会の意見を聞いた方が良い。
・現地域計画の部会構成及び基本目標を来年変更し取り組んでいく。
・部会の構成は、福祉、農業、防災、行事をそれぞれ担うものとして再編する。
・地域で交流できるイベントをコロナ前のようにやっていきたい。
・行事の目標は、コロナ禍でできなかった住民交流のイベントを企画していきたい。
・工業団地と樺地区が上手く融合できれば良いと思う。
・福祉の目標は、徘徊老人への対応策としたい。（位置情報の活用、保護に行く人員）
・農業の目標は、茶、植木、林業などを将来的に集約していくための検討（20代～40代の農家を集め、今後20年後も農業を続けていけるか話し合い、続けていく意思のある者を担い手とし今後集約していく。）
・防災の目標は、大地震などの大きな災害があった際に、自力で3日～5日程度生き延びるための備えをしておくこととしたい。
・鈴鹿P AスマートI Cができたことによる影響について、周辺道路（通学路含む）の交通量が増えたと感じており、樺神社の参拝者や入道ヶ岳の登山者が増えている印象がある。
・津波を心配して他地区から転居してきた人がいて空き家が埋まった。また、地域に根付き地域活動にも参加してくれている。
・コロナによりイベントの開催が難しい。少しずつ開催しているが、地域で触れ合う機会が減少した。
・イベントを開催する際は、人を集めること自体が困難である。
・広報に地域づくり協議会に係る内容を掲載しているが、見ている人は少ないと思う。もっとP Rできる方法はないか。
・計画冊子が分厚いため、読む気にならない。読まない＝まちづくりに意識がいかない。
・地域計画と総合計画の関係性をしっかりとしたい。地域計画と総合計画それぞれの理念を合致させたい。
・アンケート結果による、地域づくり協議会の認知度について、総合計画（その他の計画（地域計画）含む。）など、市ホームページのどこにあるか分からないため数値が伸びない。また、見ようとしても見つからないことで興味があっても、それ以上に発展しない。
・自治会との関係性の整理が必要。
・地域づくり協議会は自治会の下位に位置付けられているため、地域づくり協議会が何かやろうとした場合は自治会の承認が必要あり、地域づくり協議会で決定ができない。地域づくり協議会が上位にあった方が良いと考える。
・地域づくり協議会（部会）の取組は、発足前から行っているため、住民に周知されていると思うが、地域づくり協議会の取組とは思われていないと考える。
・地域運営組織はこれまで自治会で十分機能しており、作れと言われたので地域づくり協議会を作った。
・町民運動会や祭りなどを行う部会は、これまでも存在しており、地域づくり協議会発足に伴い、部会として位置付けた。
・新しいことを地域づくり協議会としてやることできない。新しいことをしようとした場合、大きなきっかけや仕掛けが必要となる。
・行政区と地域づくり協議会の区分が異なり運営しづらい。小学校区の所もあれば行政区の所もある。
・事務局の人材確保が困難であるため市に手伝ってほしい。
・地域づくり協議会にも自治会連合会のような上位組織が必要と考える。
・市は地域づくり協議会を発足することを重視し、問題はあと回しにしている。市は当該問題を十分認識しているはずだが方針は決まっていないのか。
・地域づくり協議会の認知度が低いからといって、地域に何か強制的にさせるようなことはやめてほしい。
・無償でボランティアをする人がいなくなる時代が来ると考えられるため有償ボランティアの必要性を検討する必要がある。
・地域に協働の認識はないため地域計画に協働の視点は入っていない。単に地域がしないといけなことを記載しているだけ。
・当地域づくり協議会は、具体的な事業を記載した事業計画は市に提出していない。事業内容について市から指摘されたり、仕事を押し付けられたりするかもしれないという思いからで、市に対して半信半疑で協働とはいいがたい計画である。
・海岸清掃は自治会がしていた活動だが地域づくり協議会が引き継いだ。
・公民館活動は独立して行っていたが、地域づくり協議会の中に入って協力してやれている。
・ハザードマップの見直しを行った。
・「協働」という言葉のイメージを良い方向に変える必要がある。
・総合計画2023の冊子は分厚く全部読むのは疲れる。A 3一枚にまとめて、地域と協働できる部分を話し合うことが必要。
・市はどの部分を協働で取り組みたいのか明確にしてほしい。
・地域づくり協議会の認知度を高めていきたい。
・地域づくり協議会、自治会、様々な区割りを詳しく説明できる職員が必要。
・地域づくり協議会の作業場所の確保に苦慮している。地域づくりを進めると言うわりに、作業場所は自分たちで探せと言いつつ非協力的である。候補となるような場所は市から提案してほしい。
・市職員の地域づくり協議会に関する知識・理解が浅い。全職員の理解を深め、協議会の相談等に親身に対応してほしい。
・市職員の窓口対応が悪い。自治会長であることを伝えたら対応が変わることがある。誰でもあっても丁寧な接遇をしてほしい。
・地域のことは地域づくり協議会が担うという点は理解できるが、丸投げで親身に相談にのってもらえないのはおかしい。
・職員の意識改革が必要。寄り添った対応をお願いする。

<p>・市と防災避難訓練を実施するのに、場所（武道館）は協議会で確保するよう言われたため、公共施設予約システムでの予約を試みたが、登録手続きに日にちを要し、すぐに予約できず使いづらい。</p>
<p>・広報すずかの「地域づくりNavi」について、これまで取り組んできた良い事例を中心に掲載されているが、協議会が苦慮していることなどの進捗状況を伝える内容でも良いのではないかな。</p>
<p>・人口密度が下がってきているため、情報伝達も上手くない。</p>
<p>・老人会を立ち上げなくても老人（60歳以上）しかいないため、自治会に統合していきたい</p>
<p>・暇になってきた人を集めて、新しく何かを始めたい</p>
<p>・80歳以上でも元気で活躍できる人が大勢いるため、働かせたい（活用したい）。</p>
<p>・情報の共有方法の刷新が必要。（デジタル化の推進）</p>
<p>・新しくNPOや株式会社を立ち上げ、お金を得られる事業を行うか、無報酬でも楽しめる事業を行いたい。</p>
<p>・農地で稼げるようになる工夫を検討する。</p>
<p>・30年後には無くなっている地区もあると思う。</p>
<p>・農地も耕作放棄地が増え続ける一方で、後継者がいない。</p>
<p>・複数の協議会の共催によるイベント、交流会があれば情報交換や活性化につながると思う。</p>
<p>・地域住民のまちづくりへの関心が低い。</p>
<p>・地域づくり協議会の認知度が低いため、行政は市全体に、地域づくり協議会は地域住民に対して、協議会の取組内容等の情報発信をして認知度を上げる必要がある。</p>
<p>・文書の回覧だけではきちんと読んでもらえないため、地域住民間での情報共有やまちづくりに関心を持ってもらうことが難しい。</p>
<p>・まちづくりに関心を持ってもらうために、まずは、住民が興味を持つ（例えば子どもを参加させたいような）イベントを開催し、そこから、まちづくり、協議会に関心を持ってもらう。</p>
<p>・地域住民がコミュニケーションを図れる機会の提供がコロナでできていない。（祭りなどのイベントの開催）</p>
<p>・各協議会間の情報・意見交換が必要。</p>
<p>・先進事例を学ぶ機会を確保したい。</p>
<p>・当地域づくり協議会は、子育て支援を最優先に掲げていくため、市も同一の方向を向いて（子育て支援を第一として）政策を進めてほしい。</p>
<p>・違う町をルーツにする集まりで、小学校区も統廃合によりバラバラのため、町内に一体感がない。</p>
<p>・自治会を超えたつながりが薄く、助け合いをできる雰囲気がない。</p>
<p>・このまま少子化が進むと、今までと同じ行政サービスが受けられないことを認識し、市内全域で危機感を持たなければいけない。</p>
<p>・地区としての一体感を醸成し、助け合いをする雰囲気づくりが最優先である。その後、健康寿命延伸や子育て支援に取り組む。</p>
<p>・各施策を推進する担当部署と地域づくり協議会の具体的な協議が必要。当該協議により各部署が地域にしてほしいことを明確にする必要がある。</p>
<p>・アンケート結果では地域づくり協議会の認知度が低いですが、協議会の周知が足りないのではなく無関心な住民が多いと考える。</p>
<p>・市からの一方的な情報提供では伝わらない。年代に応じた情報発信の工夫が必要。</p>